

## 平成30年度全国学力・学習状況調査 調査結果に関する

### 教育長コメント（7月31日）

- 平成30年度全国学力・学習状況調査は、毎年実施している国語、算数・数学に、3年ぶりに理科を加えた小・中学校10教科で実施され、本道の状況は、全国の平均正答率との差が中学校国語A、理科で上回り、中学校国語Bで同じになるとともに、他の教科では全国平均に達していないものの小学校国語A、中学校数学Bで差が縮まるほか、小学校、中学校ともに正答数の少ない児童生徒の割合が減少するなど、改善の傾向が見られます。
  
- 道教委では、これまで全国平均以上という目標の実現に向けて、調査結果等を活用した検証改善サイクルの確立、基礎・基本を定着させ見通しをもって主体的に学ぶことができる指導の充実、自ら生活リズムを整えようとする態度の育成などの取組を、市町村教育委員会、学校、家庭、地域と連携し着実に進めてきていることが、昨年度に引き続き、一定の成果として現れているものと考えています。
  
- 今後も、教育の機会均等という義務教育の趣旨を踏まえ、北海道のすべての子どもたちに社会で自立するために必要な学力を身に付けさせることができるよう、学校、家庭、地域、行政が一体となって、主体的・対話的で深い学びを実現できる授業改善と望ましい生活習慣の確立に向けた取組を、更に進めてまいる考えです。  
教育関係者や保護者の方々はもとより、広く道民の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。